

JSET

No.147

2006-10-24

日本教育工学会ニューズレター

JAPAN SOCIETY FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : office@jset.gr.jp

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

日本教育工学会 第22回全国大会のお知らせ

(最終報)

日本教育工学会第22回全国大会 (<http://www.med.kutc.kansai-u.ac.jp/~jset2006/>) を、下記のように関西大学(高槻キャンパス)において開催します。大会での発表は、合計521件(シンポジウム11件、一般研究440件、課題研究46件、英語セッション21件)が予定されており、盛大な全国大会となることが期待されます。

多くの方々のご参加をお待ちしています。また、周囲の関係者の方々にも広くご案内して下さるよう、お願いいたします。

1. 開催期日・会場

期日：2006年11月3日(金)～5日(日) (3日間)

会場：関西大学総合情報学部(高槻キャンパス) *千里山キャンパスではありません。

〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1

JR高槻駅よりバス30分

(駅北側バス乗り場5番：関西大学行き：臨時便を準備する予定)又は

JR富田駅よりバス30分

(駅北側バス乗り場1番：関西大学行き、萩谷行き、萩谷総合公園行き)

http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_inf/tp/tp_access.html

本号目次

第22回全国大会のお知らせ(最終報)	1	研究会の発表募集/報告	7
冬の合宿研究会の開催案内(第一報)	4	夏の合宿研究会報告	8
日本質的心理学会研究交流委員会企画セミナーの開催案内(第一報)	4	第11期第11回理事会議事録	10
論文誌ショートレター増刊号のご案内(第一報)	5	新入会員	11
論文誌特集号のご案内(第五報)	6	学会日誌/国際会議案内等	12

2. 大会日程

詳しくは、本号に同封されている「大会プログラム」をご覧ください。

第1日 11月3日(金)	第2日 11月4日(土)	第3日 11月5日(日)
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表 1 English Session1	9:30～12:30 一般研究発表 3 English Session3	9:30～12:30 一般研究発表 4
12:00～13:30 昼食	12:30～13:30 昼食・理事会	12:30～13:30 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム 1	13:30～14:00 論文投稿者・査読者・ 編集委員との懇談会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表 2 English Session2	14:00～15:00 全体会 15:00～17:30 シンポジウム 2 17:30～18:00 移動 18:00～20:00 懇親会	13:30～16:00 課題研究発表

*企業展示は、大会開催期間中終日催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。また、2日目の全体会では、会長による「日本教育工学会が取り組むべき重点研究内容」の解説、**研究奨励賞及び論文賞**の表彰があります。なお、学会の論文投稿者・査読者・編集委員との懇談会は希望者のみの任意参加です。懇親会の会場は、関西大学高槻キャンパス内の厚生棟（食堂）です。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマで開催されますので、ぜひご参集ください。

シンポジウム 1

シンポジウム 1A ICT教育とそれを支えるシステム

シンポジウム 1B 社会人の学習環境を創る－e-Learning, OJT, 知識創造をつなぐ教育工学－

シンポジウム 2 教育の情報化の新戦略にどう対応するか

(2) 課題研究

「日本教育工学会が取り組むべき重点研究内容」の提言を踏まえながら、以下のような8件のテーマで企画・運営されます。

1. 新しいICT技術・教育システムの開発に関する研究

■K-1 モバイル技術の教育利用

■K-2 学習オブジェクト・学習データの活用と集約

2. 高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究

■K-3 ICTを活用した授業のデザインと評価

■K-4 e-Learningを用いた高等教育における実践的教育改善の取り組みとその評価

■K-5 教育工学関連製品・サービスの機能に関する点検・評価－企業開発者自身による検証－

3. 教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究

■K-6 学校や社会のニーズをとらえる情報教育の実践研究

■K-7 教師教育の新展開－指導力の体系とその育成方法の再考－

■K-8 教育工学研究の特徴と体系化

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 (3)教育環境・組織 (4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)特別支援教育 (7)生涯学習・企業内教育 (8)看護教育・モラル教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践 (12)高等教育 (13)教育ソフトウェア開発・評価 (14)学習コンテンツ開発・評価 (15)遠隔教育・遠隔学習 (16)インターネットを利用した授業実践 (17)教育メディア (18)e-Learning (システム) (19)e-Learning (運用・評価) (20)協調学習と協調作業

(4) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。奮ってご参加ください。

◆発表時間等について

発表時間は以下のとおりです。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] 発表 15分 質疑応答 5分

[English Session] 発表 15分 質疑応答 5分

発表会場にいられましたら、座長にご連絡ください。また、万一、発表者が変更になった場合には、できるだけ早く座長にご連絡ください。

4. 会場の設備について

すべての会場で、PCを投影できる設備（プロジェクタまたは大型フラットパネルディスプレイ）が利用可能です。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。

OHPあるいはOHCの利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。

〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1 関西大学総合情報学部久保田研究室気付

日本教育工学会第22回全国大会実行委員会事務局宛

E-mailでの問い合わせ先： jset2006@med2.kutc.kansai-u.ac.jp

5. 大会への参加申し込み

既に事前申し込みは終了しました。今後の参加申し込みは、大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

大会参加費 当日 4,000円（一般） 3,000円（本学会学生会員）

論文集代 当日 5,000円

懇親会費 当日 5,000円

論文集送料 800円（参加しない場合）

なお、事前送金後の変更に伴う返金は原則として致しませんので、予めご了承ください。ただし、大会参加費と論文集代を事前に送金されたにもかかわらず大会に参加されなかった場合には、大会終了後に論文集をお送りします（送料は参加費で補填いたします）。ただし、その差額は返金できません。

6. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス：taikai2006@jset.gr.jp

2006年度 冬の合宿研究会 開催案内（第一報）

「ICT活用と学力向上 ～学力をどう捉えるか、学力をどう評価するか～」

学習環境として ICT の整備が進められていますが、それが子どもたちの学力向上とどのように関わっているのか、実証的に明らかにすることが求められています。

学力とは何か、基礎学力の向上、情報化時代に求められる新しい学力と ICT の関連、これらの問題をどのように研究や調査で明らかにしていくのか、その研究活動の取り組みを研究者間で共有し、共に考えていきます。ICT活用と学力向上に関心のある方は、ふるってご参加ください。

日時：2007年1月6日（土）13：30～7日（日）12：00

場所：鳴門教育大学・地域連携センター1階 多目的教室

アクセスマップ <http://www.naruto-u.ac.jp/access.html>

対象者：「ICT活用と学力向上」に関心のある研究者、教育現場の実践研究者の方

参加費：調整中

申込方法など、最新の情報は、学会 Web サイトにてご覧ください。

日程：（詳細は調整中です）

■ 1月6日（土）

小講演・パネルディスカッション

- ・どの学力をどのようにとらえるか？
- ・ICTの活用実践と学力

ワークショップ

- ・どのような授業展開が効果的か

■ 1月7日（日）

小講演・パネルディスカッション

- ・子どもの ICT 活用とその評価、教師はどう対応するか

日本質的心理学会研究交流委員会企画セミナー

「教育研究に、質的研究法をどう用いるか？（仮称）」（第一報）

主催：日本質的心理学会研究交流委員会

共催：日本教育工学会企画委員会、学習工学研究会（日本教育工学協会団体会員）

今回、初の試みとして、他学会の企画と日本教育工学会企画委員会との共催の形でセミナーを企画しました。質的研究法をテーマにしたセミナーを予定しております。プログラムの詳細や申し込み方法等については、第二報でお知らせいたします。国立大学入試の前日ではありますが、ぜひ、万障お繰り合わせの上、ご参加ください。

日時：2007年2月24日（土）（プログラムの詳細は調整中）

会場：金城学院大学 W9号館2階（名古屋駅から約40分、中部国際空港から約70分）

アクセスマップ <http://www.kinjo-u.ac.jp/contents/access.html>

定員：200名

参加申し込み方法：日本質的心理学会の Web サイト <http://quality.kinjo-u.ac.jp/> に、設置予定の申し込みフォームから申し込む。

ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ（第一報）

日本教育工学会論文誌 Vol.31, Suppl. の発行

論文受付締切：平成19年4月2日（月） 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌 Vol.31, Suppl.は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

ショートレターの採録条件は、Vol.27より以下のようになりましたのでご注意ください。

（詳細は、JET117号参照）

1. ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守。（4ページを超えるものは採録しない）
2. ショートレターでは、筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年1編に限り投稿できます。
3. 平成19年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・ 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・ 教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・ 教育システム開発など
- ・ 教育工学研究としての速報的な内容
- ・ 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させてまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけてください。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(平成19年度):

- 4月中 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 増刊号発行予定

投稿論文の送付先:

日本教育工学会 編集委員会 事務局
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7
マルキビル

電子投稿でも受け付けています。

<http://www.jset.gr.jp/>

日本教育工学会論文誌

特集号「学習オブジェクト・学習データの活用と集約」のご案内（第五報）

e-Learning等によるWebベースの教育・学習やデジタルコンテンツを利用した授業実施など、ICT利活用による教育・学習が進められています。そこでは、学習リソースが学習オブジェクトとして管理されます。一般に、学習オブジェクトには、共有・再利用を目的として、メタデータが付与されていることが特徴です。また、e-LearningなどのWebベース学習においては、学習者の閲覧記録や操作ログ、対話ログ、回答データ、所要時間などが、学習データとして大量に蓄積されていることが特徴です。この他にも、授業シラバスなど、様々な教育・学習情報がテキストデータとしてWeb上に掲載され、学習データとして活用できるようになっています。

このような背景のもとで、国際的なスケールでの学習オブジェクトの蓄積・利活用技術、膨大なデータから必要な情報を抽出しその内容を一目で分かる形で提示する可視化手法、利用者に応じた情報の個別提供手法、など、学習オブジェクトや学習データの蓄積・利活用に関して様々な魅力的な研究成果が報告されています。そこで、日本教育工学会では、この研究分野の今後の更なる進展のために、学習オブジェクト・学習データに関する研究を幅広く扱った特集号を企画し、下記要領により論文を募集することにしました。対象は初等・中等教育、高等教育、生涯教育・企業内教育など、幅広くとらえております。これらの分野で理論研究・技術開発・実践研究をしておられる会員各位にはふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

1. 対象分野

- (1) 学習オブジェクトの共有・再利用手法
- (2) 学習コンテンツリポジトリの開発・運用・評価
- (3) LMS, CMSに関する研究・開発・運用・評価
- (4) 学習オブジェクト・メタデータの新しい活用・集約の手法
- (5) 学習オブジェクト・学習データの技術標準に関する研究・開発・運用・評価
- (6) 学習オブジェクト・学習データの可視化とそのインタフェース
- (7) 学習者情報の活用・集約手法の開発・運用・評価
- (8) パーソナライゼーション, 学習指導情報等の個別提供サービス
- (9) オンラインテストなどテスト情報に関する研究・開発・運用・評価
- (10) データマイニング, テキストマイニングなどによる学習データの活用
- (11) 学習者行動分析における学習データの活用
- (12) 教師の意思決定支援のための学習データの活用
- (13) ユビキタス学習環境と, その学習オブジェクト・学習データの活用・集約
- (14) 学習オブジェクト・学習データを活用した学習コミュニティ構築支援
- (15) その他, 学習オブジェクト・学習データに関する研究開発成果

2. 募集論文の種類

通常の論文誌同様に、論文、資料、寄書を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、ショートレターとして既に掲載されている内容を発展させ、論文として投稿することも可能です。ただし、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

3. 論文投稿締切日

2007年1月29日（月）（2007年11月発行予定）

4. 論文送付先及び問い合わせ先

原稿は、この「原稿執筆の手引」（<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>）に従って執筆し、編集委員会事務局へ送付してください。電子投稿することもできます。

【問合せ先】日本教育工学会 編集委員会事務局 (<http://www.jset.gr.jp/>)

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

Tel/Fax : 03-5740-9505 電子メール : editor@jset.gr.jp

5. 特集号担当編集委員会

本特集号では、特集号担当編集委員会を組織して、迅速な査読を行う予定です。

より広い範囲で「学習オブジェクト・学習データの集約と活用」についての論文を募集したいと考えております。多数のご応募をお待ちしております。

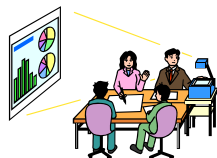
研究報告集年間購読のお勧め



予約価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。年間5冊、合計500ページ前後で、各研究会平均16件程度(平成17年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル TEL/FAX: 03-5740-9505
E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の発表募集



コミュニケーションを重視した教育実践と情報モラル教育／一般

- 日 時: 2006年12月16日(土)
- 会 場: 長崎大学
- 開催担当: 寺嶋浩介(長崎大学教育学部)
- 申込締切: 2006年10月16日(月)
- 原稿提出: 2006年11月16日(木)

*原稿は、PDF形式で電子的に提出できます。

●**募集内容:** 情報化の進展、メディアの多様化によって、子どもが受信をする情報量が膨大なものとなってきました。そうした中で今年政府が発表した「IT 新改革戦略」においても「情報モラル教育」が取り上げられ、学校教育における実施の重要性が指摘されています。また、多様なメディア環境に対応するコミュニケーションを重視した新しい教育活動が実施され、それに伴うコミュニケーション能力の育成などの問題点も浮上してきました。以上のような内容に関する教育実践や研究に関わる発表をお待ちしております。

また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●応募方法:

研究会Webの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

●申し込み締切: 2006年 10月16日(月)

締切後、申し込まれた方宛に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●**原稿提出期限: 2006年11月16日(木)必着(厳守!)** をお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式(サイズは1Mバイト未満)での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は、研究会事務局(jset-submit@nime.ac.jp)です。電子メールに添付して送ってください。

研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです。年5回の開催を予定しています。

2007年 3月 3日	授業実践とメディア活用	園田学園女子大学
2007年 5月 19日	地域教育力と情報教育	北星学園大学

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望、魅力的な研究会テーマの提案、研究会での企画などをお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

- (研究会全般, 研究会 Web Page, 研究会発表の申込, 変更等, 原稿執筆) に関するお問い合わせ
⇒ 研究会幹事 jset-branch@nime.ac.jp
- (年間購読, 原稿提出) に関するお問い合わせ
⇒ 学会本部事務局 office@jset.gr.jp

研究会の報告

2006年9月2日、三重大学において、「授業改善に活かす教育工学」というテーマで研究会を開催しました。参加者は約60名で、遠路はるばる札幌や仙台から参加して下さった学会員の方もいらっしゃいました。三重大学の建物上階から中部国際空港が見え、三重県津市までは高速船で40分の距離です。

発表件数は10件で、やや少なめでしたが、時間的なゆとりもあり、全発表終了後、総括討議のための時間も十分あり、活発な話し合いが行われました。大学および学校現場での授業を、教育工学での研究成果を活かし、いかに改善していくかについては、1) 学習者中心に授業の展開を考え、学習者の声や反応(授業交流カード「大福帳」などを活用し)を授業に活かすよう努力する。2) 学習者が自らの学習をポートフォリオなどを用いて振り返る活動を多く取り入れる。3) 新しい機器やネットだけでなく、紙ベースのものや古くなった機器(OHPやビデオなど)も活用する。特に、機器を教師が使うのではなく、学習者に積極的に利用させる。という意見が出されました。

今回の研究会では、大学院生や学部生の発表が10件中半分の5件ありました。学生会員の発表内容や方法がとてすばらしく、堂々としたわかりやすいプレゼンテーションが印象に残りました。

研究会開催担当: 須曾野仁志(三重大学教育学部)



2006 年度 夏の合宿研究会報告

2006 年度の夏の合宿は、8 月 26 日（土）13 時から、27 日（日）13 時 30 分まで、「ICT でつなぐ、学校、家庭、地域社会」をテーマに、北海道新冠郡新冠町のレ・コード館にて開催した。北海道をはじめ、全国から多数の参加者（総計 97 名）を迎えて、盛大におこなわれた。また、協力企業の方々に、最新鋭の教育機器や無線 LAN 環境等をご準備いただき、充実した ICT 環境の中で研究会を開催することができた。以下に報告する。

<8 月 26 日（土）>

(1) 講演 I 13:10-13:40

新冠町教育委員会教育長 辻本政壽氏より「行政が元気になって取り組む情報教育の推進」についてご講演いただいた。教育現場の状況を端的に捉えており、今後の学校教育への明確なビジョンを持った内容であった。

(2) ミニ講演 13:45-15:25 (25 分×4=100 分)

ミニ講演 1 デジタルポートフォリオによる教師の学び（兵庫教育大学 永田智子）

ミニ講演 2 国語教育への ICT 活用（松阪市立中部中学校 森喜世子、伊勢市立御菌中学校 南和美）

ミニ講演 3 E-Learning と OJT を組み合わせた教員研修（三重県総合教育センター 中村武弘）

ミニ講演 4 ワークショップ型校内研修の意義と進め方（入門編）（鳴門教育大学 村川雅弘）

講演 1 では、ティーチングポートフォリオを使うことで、「一人からの授業研究」が「みんなでの授業研究」につなげていくことができるといった提案がされた。講演 2 では、国語教育の中で、ICT を活用した新しい学びの創生や学習意欲の向上についての事例が紹介された。講演 3 では、教員研修での、効果的な E-learning ツールの活用法と、OJT の成功のための手立て等具体的な事例の報告がなされた。ミニ講演 4 では、ワークショップ型の教員研修の事例、手法、その成果等についての具体的な事例が示された。

(3) 事例紹介 15:05-16:17 { (発表 10 分+質疑応答 2 分) ×6=72 分 }

①「テレビ会議システム等を用いた交流学习」（夕張市立幌南小学校 黒坂俊介）

②「『授業での ICT 活用』を普及する手だて」（札幌市立平岡中学校 尾崎廉）

③「学校の情報化への取り組み～教育情報化コーディネータの立場から～」（岩見沢市立北村小学校 佐々木東）

④「PTA、地域と学校をつなぐ教育実践」（札幌市立宮の森小学校 PTA 会長・有限会社ラププロデューサ 小賀 聡）

⑤「ICT を活用した学習指導」（北海道高等聾学校 新谷洋介）

⑥「個人情報保護に関する校内研修の取り組み」（足利市立坂西中学校 小川裕之、所沢市立荒幡小学校 寶迫義人、志布志市教育委員会 辻慎一郎、金城学院大学 長谷川元洋）

①では、IT を使った学校間交流によって、特に情報を発信・伝達する力や情報モラルなどが育成された事例が取り上げられた。②では、北海道における ICT 活用の普及においてネックになっている現状を分析し、普及のための活動報告とその成果が報告された。③では、情報化コーディネータとして取り組んできた実績として、「校務の情報化」や情報設備環境の整備をはじめ、授業での効果的な活用についての具体的な事例が報告された。④では、メールによる不審者情報の提供や安全マップ作りなどの PTA による学校の子どもの安全を守る活動（セーフティネット）における ICT 活用事例について発表があった。⑤では、自作のデジタル教材を活用した授業実践事例において、ICT 活用による学習効果の向上をはじめ、教材を自作する利点やインターネットで公開する利点などが報告された。⑥では、学校における個人情報保護に関する校内研修の方法が提案された。

(4) ブラッシュアップ ワークショップ (16:25-17:40) (co.=コーディネータ)

テーマ1: PTAや教育情報化コーディネータ等, 学校外部と連携して情報教育をどう活性化するか?

(co.北星学園大学短期大学部 武田亘明)

テーマ2: 学習効果を上げるために, ICTをどう活用するか?

(co.北海道高等聾学校 新谷洋介)

テーマ3: 教育の情報化に対し, 教育行政はどのように関わるか?

(co.登別市立教育情報センター 北尾稔)

テーマ4: 教育の情報化を図る校内研修をどう行うか?

(co.三重県総合教育センター 中村武弘)

テーマ5: 教育実践研究会で教育情報をどう共有し, 互いのレベルアップをどう図るか?(co.札幌市立平岡中学校 尾崎廉)

テーマ6: 情報安全教育と個人情報保護をどう行うか?

(co.金城学院大学 長谷川元洋)

上記の6つのテーマから, 最も興味のあるテーマを選び, それぞれのグループに分散してワークショップを実施した。規定の時間が過ぎても, 討議やウェビング作業を継続しているグループもあり, 非常に活発なワークショップとなった。また, ワークショップで作成した成果物は, 同時並行でデジタル化し, 参加者間での成果物の共有できるようにした。



(5) 情報交換会, ナイトセッション, ミッドナイトセッション

深夜まで活発に熱い議論が展開し, 合宿研究会ならではの参加者間交流がなされた。

<8月27日(日)>

(6) 講演II 9:00-9:30

「ワークショップ型校内研修の多様性と授業改善との連動(応用・発展編)」(鳴門教育大学 村川雅弘)
ワークショップ型校内研修についての発展的な内容の講演がなされた。

(7) シンポジウム 9:45-10:55

まず, 各ワークショップのコーディネータから, 「教育の情報化を浸透させるための課題」について報告を受けた。発表者相互による討議や会場からの意見を交えて進められた。

(8) 総括講演 11:00-11:30

「ICTを活用した授業とこれからの学校」(聖心女子大学 永野和男)

まず, 教育の情報化における2つの側面である「情報教育の推進によって新しい学力をどのように身につけていくか」, そして「教科の通常授業においてICT活用をどのように展開するか」といった点について, 解説があった。その後, 学校教育現場において, 今は何を準備し, 誰の何を支援していくかといった議論からはじめていくこと, また, 「いいものをさりげなく, 少しずつ着実に, 情報をオープンに」がICT活用普及の秘訣であるとの指摘があった。

以上のように, 「教育の情報化をどう進めるか?」「今行っている実践をどう改善するか?」「先進的な事例をどこの学校でも実践するにはどうするか?」等, どの教育現場においても直面している課題について, 解決のための具体例や手法を共有することができ, 充実した研究会となった。これも, 新冠町教育委員会のご支援, ご協力をはじめ, 北海道の研究会の皆様, ご協力いただいた企業の皆様による綿密な打合せや裏方作業によって, 本研究会は成功を収めることができたと言える。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

(文責: 豊田充崇・長谷川元洋)

第 11 期第 11 回理事会議事録

日 時：平成 18 年 9 月 16 日（土）15:00～17:00

場 所：キャンパスイノベーションセンター 806 会議室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，矢野米雄副会長，山西潤一副会長，
伊藤紘二，植野真臣，木原俊行，近藤勲，鈴木克明，中山実，永岡慶三，
堀田龍也，村川雅弘，山内祐平，事務局：磯野，服部

1. 第 11 期第 10 回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について承認した。

- | | |
|-----------|---|
| (1)新入会員 | 142 名(正会員 55 名，准会員 13 名，学生会員 73 名，維持会員 1 名) |
| (2)退会会員 | 3 名(正会員 2 名，学正会員 1 名) |
| (3)会員種別変更 | 6 名(正会員へ 1 名，准会員へ 1 名，学生会員へ 4 名) |
| (4)除籍会員 | 1 名(正会員 1 名) |

3. 各種委員会報告について

- (1) 編集委員会：矢野副編集委員長から，一般論文誌，英文誌，特集号論文，ショートレターの編集状況について報告があった。査読の迅速化のために，査読支援システムを開発することが報告された。編集委員が 5 名交代することが報告された。
- (2) 研究会委員会：近藤委員より研究会が順調に開催されていることが報告された。
- (3) 企画委員会：村川委員長から，夏の合宿開催報告，秋の産学協同セミナー，冬の合宿の準備状況について報告があった。
- (4) 大会企画委員会：鈴木委員長から，第 2 回大会企画委員会を開催し，大会プログラムを作成したことが報告された。次期の早稲田大学の大会におけるポスターセッションの取り扱いについて，意見を交換した。2008 年度大会開催地について話し合った。
- (5) 選挙管理委員会：次期選挙における役員の改選手続きについて，事務局で確認することにした。
- (6) 将来構想委員会：山西委員長より，日中韓の教育工学の学会連携を推進，企画調整するために，科研費に応募して連携を強化する案が報告された。
- (7) 広報委員会：堀田委員長から JSET ニュースレター 147 号の台割について案が示され，担当の割り当てと原稿の執筆依頼を行った。

4. その他

- (1)情報教育の推進について：赤堀会長から資料 5 に基づいて報告があった。
- (2)研究者倫理について：矢野副会長から説明があり，話し合った上，状況を調査することにした。
- (3)著作権と電子化について：赤堀会長から資料 6 に基づいて説明があり，検討を継続することにした。
- (4)来年度科研の企画調査について：国際交流を中心とした企画調査を申請することにした。
- (5)重点研究の成果について：成果の取りまとめについて話し合った。
- (6)求人案内について：求人案内の掲載するガイドラインを確認した。
- (7)協賛名義使用を承諾した：ITHET2007，ICALT2007
- (8)後援名義使用を承諾した：先進 IT 活用教育シンポジウム in 和歌山，高知（財団法人コンピュータ教育開発センター）
- (9)本学会への広報：専任教員の公募について（東京情報大学）ほか 14 件を回覧した。
- (10)今後の理事会日程について：
第 11 期第 12 回理事・評議員（合同）会：平成 18 年 11 月 4 日（土）
第 11 期第 13 回理事会：平成 18 年 11 月 25 日（土）15:00～17:00
第 11 期第 14 回理事会：平成 19 年 1 月 27 日（土）15:00～17:00
第 11 期第 15 回理事会：平成 19 年 3 月 24 日（土）15:00～17:00
第 11 期第 16 回理事会：平成 19 年 5 月 12 日（土）15:00～17:00

以上

■ 正 会 員 55名

松本寿一
井上智司 (宇宙通信株式会社)
清水健太郎 (群馬県立女子大学)
村井礼 (四国大学)
菅原真悟 (法政大学)
川端愛子 (札幌市教育センター)
湯川高志 (長岡技術科学大学)
汪曙東 (広島修道大学)
伊藤大輔 (関西大学)
吉川秀紀 (ブリタニカ・ジャパン(株))
保坂裕子 (兵庫県立大学)
岩田員典
納谷淑恵 (兵庫県立教育研修所)
山住勝広 (関西大学)
島田誠 (株式会社 内田洋行)
岡田礼子 (東海大学短期大学部)
後藤守 (北海道教育大学大学院)
田中每実 (京都大学高等教育研究開発推進センター)
山下清美 (専修大学)
岩崎美紀子 (有限会社 I L P D)
佐々木康成 (早稲田大学メディアネットワークセンター)
田中洋一 (仁愛女子短期大学)
長谷部葉子
(慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)
高橋大伴 (慶應義塾大学 SFC 研究所)
黒瀬陽代 (東京工科大学)
三井浩康 (東京電機大学)
宮本朋典 (浜松市立和田東小学校)
田中省作 (立命館大学)
山根僚介 (尾道市立土堂小学校)
熊本悦子 (神戸大学)
泉恵美子 (京都教育大学)
平井和人
木暮祐一 (合同会社移動体通信研究会)
須田幸次
三崎隆 (北海道教育大学釧路校)
加藤潔
的場茂樹 (金沢市立朝日小学校)
合田美子 (青山学院大学)
朴逸子 (佐賀大学)
犬塚章夫 (刈谷市立依佐美中学校)
佐々義子
(NPO 法人くらしとバイオプラザ21)
立野貴之 (獨協大学)
井上直子
Ho Curtis (兵庫教育大学)
志村光太郎 (青山学院大学)
水谷浩三 (暁小学校)
関口幸代

清水和久 (石川県教育センター)
須田和裕 (東京工業大学)
古川智子 (青山学院大学総合研究所)
牧野豊 (八王子市立山田小学校)
中山健
檀寛成 (関西大学)
伊藤健二 (慶應義塾大学)
野田啓子 (立命館大学)

■ 学 生 会 員 73名

守一介 (早稲田大学大学院)
鈴木しのぶ (京都外国語大学大学院)
竹本貴昭 (広島国際大学)
藤岡寿幸 (広島国際大学)
宮野聖之 (広島国際大学)
中村優 (広島国際大学)
重森佑介 (広島国際大学)
志岐裕子 (慶應義塾大学大学院)
松下圭佑 (広島国際大学)
川崎雅子 (千葉大学)
白井康雄 (京都大学大学院)
坂本良太 (三重大学大学院)
時任隼平 (関西大学大学院)
廣澤晃一 (東京農工大学大学院)
加藤祐己 (慶應義塾大学)
山室公司 (関西大学大学院)
宮添輝美 (国際基督教大学大学院)
下山隆 (東京理科大学大学院)
藤井慎裕 (法政大学大学院)
Fernando Junior (富山大学)
三角美樹 (北海道大学大学院)
佐藤朝美 (東京大学大学院)
須藤賢太郎 (青山学院大学大学院)
後藤田中 (徳島大学大学院)
石川航平 (北陸先端科学技術大学院大学)
Saida Ulfa (佐賀大学大学院)
鍛冶大佑 (大阪教育大学大学院)
林海福 (総合研究大学院大学)
馬英榕 (東京工業大学大学院)
柴田和聖 (いわき明星大学大学院)
坂本友里 (東京工科大学)
冲和未 (滋賀大学大学院)
足立淳 (早稲田大学)
田中美穂子 (早稲田大学)
田中健太 (東京工業大学)
濱田学 (兵庫教育大学)
神田祐佳 (東京工科大学)
山田勝啓 (徳島大学大学院)
Inostroza Luis (徳島大学)
長尾隆宏 (徳島大学大学院)
服部晃範 (静岡大学大学院)
山下元子 (静岡大学大学院)
小川修史 (和歌山大学大学院)

金澤秀知 (東京工業大学)
歌代崇史 (北海道大学大学院)
渡辺智彦 (埼玉大学大学院)
藤原雅彦 (佛教大学)
渡邊洋子 (慶應義塾大学)
館野泰一 (東京大学大学院)
三宅正樹 (東京大学)
長沼将一 (東京都立大学大学院)
草野英之 (工学院大学大学院)
吉川正剛 (鳴門教育大学大学院)
瀬戸崎典夫 (九州大学大学院)
岡本清美 (関西大学大学院)
原田美智恵 (東京学芸大学大学院)
武田裕二 (岐阜大学)
Bae Mi Eun (漢陽大校)
池田実奈 (北海道大学大学院)
中内辰哉 (拓殖大学)
牧田裕喜 (拓殖大学)
宮原俊之 (熊本大学大学院)
清水聡 (信州大学教育学部附属教育実践総合センター)
徐裕蘭 (国際基督教大学)
高橋暁子 (岩手県立大学)
村西あい (同志社大学大学院)
森俊雄 (長崎大学大学院)
新海公昭 (早稲田大学大学院)
神戸裕貴 (大谷大学)
中川博幸 (関西大学)
樋口生明 (関西大学)
神戸裕貴 (大谷大学)
小島伊貴 (拓殖大学)

■ 准 会 員 13名

尾崎文雄 (津山市立高田小学校)
王文涌
西尾三津子 (京都市立祥豊小学校)
波多野剛正 (京都府立北嵯峨高等学校)
長谷川紀幸 (横浜国立大学)
佐藤正寿 (奥州市立水沢小学校)
中山均 (高岡市立東五位小学校)
藤元拓也 (宮崎市立東大宮小学校)
若月隆雄
宮内佐和子
北本美沙子 (北本市立西中学校)
神山真一 (神戸大学)
大川成夫

■ 維 持 会 員 1名

芳賀紳 (株式会社インフィニテック)

学会日誌

2006年

- 11月 3日(金)～ 5日(日) 第22回全国大会(関西大学)
- 11月 4日(土) 理事・評議員(合同)会(関西大学)
- 11月25日(土) 理事会(CIC)
- 12月16日(土) 研究会「コミュニケーションを重視した教育実践と情報モラル教育」(長崎大学)

2007年

- 1月 6日(土)～ 7日(日) 冬の合宿研究会(鳴門教育大学)
- 1月27日(土) 理事会(CIC)
- 2月24日(土) 日本質的心理学会研究交流委員会企画セミナー(金城学院大学)
- 3月 3日(土) 研究会「授業実践とメディア活用」(園田学園女子大学)
- 3月24日(土) 理事会(CIC)
- 5月12日(土) 理事会(CIC)
- 5月19日(土) 研究会「地域教育力と情報教育」(北星学園大学)

国際会議の案内

WMUTE 2006	http://www.ask.iti.gr/wmte/2006/
ICCE 2006	http://www.icce-2006.org/
SITE 2007	http://site.aace.org/conf/
ED-MEDIA 2007	http://www.aace.org/conf/edmedia/

お問い合わせ先 (E メールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ・・・大会企画委員会 (taikai2006@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長: 清水康敬, 編集委員長: 堀田龍也, 委員: 山西潤一, 石塚丈晴, 高橋 純
(独)メディア教育開発センター堀田研究室 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.147

2006年10月24日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055